

反転授業方式の導入と DP 対応の結果

教育学研究科 白松 賢

1 今年度の授業内容

本授業では、教職への一体感を目指して、教育法規、教育原理、教育史、教師の生活世界についての概論やディスカッションを通して、基礎的知識・理解を深める。また自己の適性について自己評価する。

2.今年度の遠隔授業と対面授業

本年度は、クラス分けを行い、遠隔授業（知識理解）と対面授業（思考・判断・表現）を実施した。クラス A（小学校）、クラス B（中学校、特支、幼年）のコース・サブコースで二つに分けた。本来であれば、幼年と特支を小学校に組み込みたいところではあるが、残念ながら、人数のアンバランスを調整するため、目的や内容ごとのクラス分けが困難であり、今後の課題である。

具体的には、前半の 8 回について、知識理解に関わる内容（中間テスト）については繰り返し学習ができるように、Stream を活用して動画学習を各クラス交互に 4 回ずつ受講できるようにした。またその動画学習を受けて、対面クラスでは、動画学習内容を踏まえて、ディスカッションができるようにした。その後、後半 8 回の授業では、共通回を対面で受講し、思考・判断・表現に関する資質能力や興味・関心・意欲、態度に關関する資

質能力を高める内容を中心に構成した。

3 DP 対応調査の結果から

昨年度より、DP 対応調査の内容が変化したため、R3 年度と R4 年度の結果比較から検討を行いたい。

まず R4 年度では、「技能」を除く項目において、「とてもそう思う」という回答が昨年度よりも高い割合で回答されている。特に、「知識・理解：教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している」に関する項目では、15%以上割合が増加し、あまりそう思わないという回答が大きく減った。また、「思考・判断・表現」に関する項目も、15%近く、割合が上昇し、「あまりそう思わない」という回答が大きく減少した。これらは、反転授業を生かして、ディスカッションやケーススタディを取り入れた成果であると考えられる。一方、「技能」について今年度、「DP 対象ではない」という割合が増加しているが、調査前に、この授業の対象としている DP を説明したことによって、この結果が生じた。

なお、今年度、動画の字幕が間に合わず、ダイバーシティ対応については大きな課題があった。次年度、この点について改善し、さらに授業内容の理解促進に努めたい。

	年度	とてもそう 思う	ある程度そう 思う	あまりそう 思わない	DP対象では ない	計
知識・理解：教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している	R4	71.8%	26.4%	1.8%	0.0%	100.0(163)
	R3	55.6%	36.8%	10.5%	0.0%	100.0(133)
技能：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている	R4	22.6%	10.7%	0.0%	66.7%	100.0(168)
	R3	36.8%	47.4%	18.0%	0.8%	100.0(133)
思考・判断・表現：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる	R4	59.5%	39.9%	0.0%	0.6%	100.0(163)
	R3	43.6%	47.4%	12.0%	0.0%	100.0(133)
興味・関心・意欲、態度：教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする	R4	74.2%	23.9%	1.2%	0.6%	100.0(163)
	R3	67.7%	32.3%	3.0%	0.0%	100.0(133)